

令和六年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

数学科 1年生

1 日常の学習状況について

1年生の数学の学習状況については以下のような特徴が見られる。

- (1) 基礎的な四則計算の理解度はあるが、四則混合計算になると苦手意識をもつ生徒がいる。
- (2) 正負の数の基本的な計算などの理解はするが、繰り返しの家庭学習が身に付いていないため、分数・累乗・カッコを含む計算問題などではミスが目立ち定着していない。
- (3) 積極的に取り組む生徒が多く、授業中の発言も多い。

2 期末考査等の結果を踏まえて

- (1) 小学校の振り返りテストでは、基本的な計算は出来ていたが、図形分野を苦手とする生徒が多い。
- (2) 分数の計算において約分忘れが多く見られた。約分のチェックをするよう指導を行う。
- (3) 四則計算の順序のミスが多く見られた。計算のルールを理解させ、四則計算の計算ルールを確認して、問題を把握してから計算する指導を行う。
- (4) 図形分野の知識を問う問題に対して正解率が大きく下がる傾向がある。問題の意図を読み取り答えていく練習を日頃から意識して取り組ませる。
- (5) 文章を読むことに抵抗がある生徒が多く、文章が長い問題になると、問われていることが正確に答えられない。普段からの授業で、多く扱い指導を行う。

3 学力に関する状況

本校の1年生の数学の学力については以下のような傾向が見られる。

- (1) <知識・技能>単純な計算問題、特に整数の計算についてはできる生徒が多い。しかし、分数、小数の計算や、特別な支援、指導が必要な生徒（掛け算九九や二ケタの引き算ができない）が各学級に数名いる。
- (2) <思考・判断・表現>文章を読み、考えて問題を解くことが不得意である生徒が多い。一部の生徒で途中式や式の書き換えを苦手としている。
- (3) <主体的に取り組む態度>多くの生徒がテスト後に学習の振り返りを行うことで、学習の仕方の見直しをすることができた。

4 教科の課題

(1) 授業面

- ・ 50分間の授業で、集中力が続かない生徒がいる。
- ・ 問題の意味を考え、思考力や判断力を問う問題の解法について理解を高める必要がある。
- ・ 夏季休業中の補習や定期考査前の質問教室等を利用して、基礎の計算を苦手になっている生徒の学力向上。

(2) 指導面

- ・ 問題集を提出させることで問題演習の機会を設けているが、反復練習が出来ていない。
- ・ 個別指導を必要としている生徒が多い。

5 授業改善について

(1) 学習面

- ・ 50分の取組で何を理解しなければならないのかがわかるよう本時のめあてを黒板の一番上に明示し、授業の流れを右側のホワイトボードに示し、見通しを持った授業を行う。
- ・ 授業の始めに復習計算プリントを行い、基本基礎の解く力を身につける。基礎基本を重点にして、繰り返し問題練習に取り組む。
- ・ TT 授業を活用して、個別に対応できるようにする。
- ・ 問題演習の充実では、家庭学習を通して、スタディサブリなどを活用し、基礎的な問題の演習量を確保するため、授業でスタディサブリを活用する。
- ・ 生徒同士で教え合う場を設け、理解を深めさせる。

(2) 指導面

- ・ 質問教室や夏休みの学習教室を通して、個別指導を行う。
- ・ 夏休みの課題で基本的な1学期の計算問題の反復練習を行う。
- ・ 問題集の確認後、理解していない生徒に対して再提出等の適切な指導を行う。

6 成果の確認

この「授業改善推進プラン」の成果については、令和六年度末に以下の方法で評価する。

- (1) <知識・技能>計算テスト・定期考査の結果、章ごとの振り返り
- (2) <思考・判断・表現>計算テスト・定期考査の結果、章ごとの振り返り
- (3) <主体的に取り組む態度>授業での取り組み、提出物、定期考査や章ごとの振り返り

令和6年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

数学科 2年生

1 日常の学習状況について

2年生の数学の学習状況については以下のような特徴がある。

- (1) 基礎的な四則計算は身に付いている。分数や小数の混ざった計算問題ではミスがある。
- (2) 「式の計算」「連立方程式」「1次関数のグラフ」の基本的な計算は身に付いている。しかし、小数・分数を含む計算問題や連立方程式の利用「道のり・速さ・時間」「割合」の問題などは、定期テストの結果からも定着していない。1次関数「変化の割合とグラフ」も1年生での比例の関係から身に付いていない生徒が多く、変化の割合と傾き・グラフの関係の理解が不足している。
- (3) 「数学的な見方、考え方」を必要とする問題を解く力は不足しており、利用問題（文章問題）が身に付いていない。

2 中間考査、期末考査等の結果を踏まえて

- (1) 正負の計算などの基礎基本が定着していない生徒も多く、正負の四則計算（小数・分数）から未定着がある。
- (2) 等式変形や1学年図形での立体図形で特に円錐の表面積・体積（側面積「おうぎ形」に関する計算）計算、球の表面積、体積での公式の活用した計算で理解不足があった。

3 学力に関する状況

以上のことから本校の現2年生の数学の学力については以下のような傾向が見られる。

- (1) 基本の計算問題、特に整数の計算はできるが、分数・小数の計算、利用問題の割合、速さ問題や1次関数の変化の割合とグラフに対して苦手としている。
- (2) 1年次の図形に関しての問題（空間図形の展開図や展開図を使つての面積計算等）の解き方を忘れている生徒が見られる。

4 教科の課題

(1) 学習面

- ・文章題などの問題内容から式にする解法について、ワークや長期休業中の課題から繰り返しの学習を行い基礎基本の定着を図る。
- ・定期考査前の質問教室等を利用して、苦手になっている生徒の理解向上を図る。

(2) 指導面

- ・問題集を提出させることで生徒の問題演習の機会を設けている。理解しないままの提出や未提出の生徒に対しての対応を検討する。
- ・一斉指導での理解力が低く、個別指導を必要としている生徒へは、学習支援ボランティア等の活用を進める。
- ・理解度を確認するための確認テストを実施する。

5 授業改善について

(1) 学習面

- ・ 50分の取組で何を理解しなければならないのかがわかるよう本時のめあてを明示する。
- ・ 基礎基本を重点にして、問題集を活用し繰り返しの練習に取り組む。
- ・ 理解の速い生徒へは、発展的な学習内容も取り組めるよう問題集の B（発展課題）を活用する。

(2) 指導面

- ・ 質問教室を通して、個別指導を行う。
- ・ 夏休みの課題（夏トレ）で基本的な計算問題の反復練習を行う。振り返りを重点に取り組む。
- ・ 夏休みに学習教室（夏トレ）で1学期の基礎基本の復習を行う。
- ・ 学期単位で理解度確認テストを実施する。（各個人の理解度確認）

6 成果の確認

この「授業改善推進プラン」の成果については、令和6年度末に以下の方法で評価する。

- (1) 夏休み明け理解度確認テストの結果
- (2) 中間考査、期末考査の結果
- (3) 単元まとめプリントの内容
- (4) 教科授業のアンケート

令和6年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

数学科 3年生

1 日常の学習状況について

3年生の数学の学習状況については以下のような特徴が見られる。

- (2) 基礎的な四則計算が身についており、授業にも意欲的に取り組んでいる生徒が多いが、分数や小数、累乗の混ざった応用の計算問題ではミスが目立っている。
- (2) 計算問題を解く力はあるが、文章題や工夫して解くような応用問題を苦手とする生徒が多い。
授業では周りの人と相談できず、一人で静かに考えこんでいる姿が見られる。
- (3) 「思考力・判断力・表現力」を必要とする問題では、特に1学年の図形、2学年の証明等で解き方を忘れているのか、あきらめてしまっている生徒もいるための正答率が低くなっている。応用力が身に付いていない生徒が多い。

2 学力調査・中間考査、期末考査等の結果を踏まえて

- (2) 3年生の1学期で習った基本的な知識・技能は身に付いているが、1・2年生で習ったことで図形と証明が身に付いていない生徒が多い。
学力調査では、記述式形式で文字を用いた式の証明、等式の変形、事柄が成り立つ理由の説明、問題解決の方法、筋道を立てて考える証明の問題の正答率が低かった。
- (2) 1学期期末考査では、思考力・判断力・表現力（図形、証明）の得点が全体的に低く、応用力が身に付いていない生徒が多かった。

3 学力に関する状況

以上のことから本校の現3年生の数学の学力については以下のような傾向が見られる。基本の計算問題、特に整数の計算についてはできるが、図形の問題、等式の変形、筋道を立てて考える証明の問題、事柄が成り立つ理由の説明、平方根の利用など考えて問題を解くことを苦手としている。また、文章題などの融合問題の「思考力・判断力・表現力」の理解力が不足している生徒が多い。

4 教科の課題

(1) 学習面

- ・授業に前向きで、意欲的に学習に取り組んでいる部分を良さも大切にする。
- ・文章題など考えて解く問題の解法について理解を高める必要がある。
- ・定期考査前の学習や長期休業中の学習教室を利用して、苦手になっている生徒の学力向上を図る。

(2) 指導面

- ・個別指導では、ある程度の理解に達するが、一斉指導での理解度が低い。
- ・個々の理解度の差が激しく、授業の進度の調整が難しく、未定着のまま、授業が進んでいくことがある。

5 授業改善について

(1) 学習面

- ・問題演習の充実
毎時間授業内で問題演習が必ずできるように時間を確保する。
- ・問題集の自主的な学習の習慣化の徹底
問題集の提出と定期テストを定例化し、何をすればよいのか等の目標をもった学習ができるように指導する。
- ・応用問題の充実
形式的に解ける問題だけではなく、文章題や過去の学習内容を定期的に取り入れる。
- ・夏の学習教室の実施
補習教室を通して、休校中の学習内容や総復習をして学び直しをする。
- ・放課後・質問教室等の補習教室の充実
基礎計算が定着していない生徒、休校中の課題の理解不足生徒への、反復指導を行う。

(2) 指導面

- ・授業では、解説を聞くだけではなく、近くの人と相談し自分で考える時間を確保し、自力で解く習慣を身に付けさせる。
- ・反復練習によって、計算の基礎を身に付けさせる。
- ・補習教室によって、定着が不十分な生徒の学力を付け、復習テスト等を行う事で、理解度を確認出来るようにする。
- ・ICT 機器などを活用し、生徒の興味・関心を伸ばすことを心がける。

6 成果の確認

この「授業改善推進プラン」の成果については、令和6年度末に以下の方法で評価する。

- (1) 観点別学習状況の評価の学期ごとの比較
- (2) 中間考査、期末考査の結果
- (3) 第2回確認テストの結果
- (4) 数学授業のアンケート